

平成 21 年度に各団体が予定している事業について

- 1 . 霧ヶ峰高原ガイド組合事業計画 (霧ヶ峰ガイド組合)
- 2 . 霧ヶ峰におけるニホンジカによる植生被害対策について
(長野県環境部自然保護課)
- 3 . 平成 21 年度霧ヶ峰高原草原再生火入れ事業(諏訪市市民部生活環境課)
口頭説明

平成21年度

霧ヶ峰高原ガイド組合事業計画

霧ヶ峰高原ガイド組合は、霧ヶ峰高原の自然を背景として育まれてきた歴史、文化、芸術等を解説し、霧ヶ峰高原の自然環境保全に理解を深め、多くの人に参加くださることを目的に事業を行っています。

1. 自然観察会の実施

- | | | |
|-------|-------------------|-----------|
| 春の観察会 | 長い冬から目覚めた新緑の植物を観察 | 6月下旬 |
| 秋の観察会 | 終息してゆく秋の動植物の様子を観察 | 10月下旬 |
| 冬の観察会 | 雪と寒さに耐えている動植物を観察 | 2月下旬～3月中旬 |

2. 霧ヶ峰高原セミナーの開催

小学4、5学年生児童を対象として実施する。

夏休み期間中2回(2日間)実施して霧ヶ峰の自然の大切さを理解し、夏休みの宿題のお手伝いをする。

3. 観察会、ガイド、講演会の依頼の対応

エージェント、団体やグループからの依頼も既に複数受けている。

既に小・中学生を対象の観察会や講演の依頼もある。

4. 諏訪市主催の野焼き、雑木処理に参加する。

霧ヶ峰におけるニホンジカによる植生被害対策について

1 平成 20 年度事業

防護対策（電気柵の設置 H20.7.11 ~ H20.11.5）

八島ヶ原地区、富士見台地区の 2 箇所に計 1,600m の電気柵を設置

シカの行動追跡

- ・ 行動追跡調査（信州大学へ調査業務委託）
20 頭のニホンジカに発信器を装着して、行動を追跡
- ・ 植生被害状況調査（環境保全研究所）
- ・ ライトセンサス調査（環境保全研究所）

シカの行動と防護効果の検証



平成 20 年度調査結果

【草原利用状況】

- ・ すべての個体が、春季～夏季に霧ヶ峰の草原域（標高 1600m 以上）を利用。
- ・ 主に日中森林、夜間草原を利用する。しかし、一日を通して草原を利用する個体も認められた。
- ・ 日没前後に草原に現れ、日出までに森林に戻っている。

【電気柵の影響】

《富士見台》

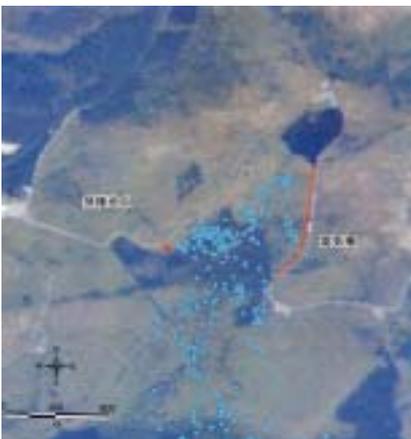
- ・ 追跡個体 20 頭のうちオス 1 頭が周辺の草地を利用していたが、電気柵が設置してある斜面よりも上部は利用していなかった。

《八島ヶ原湿原東》

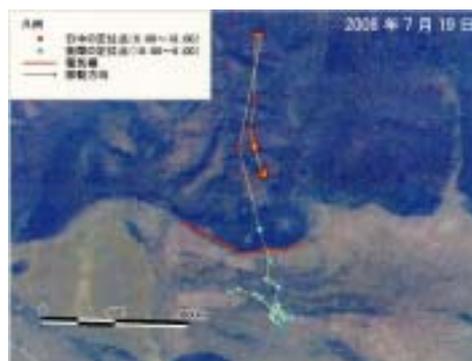
- ・ 追跡個体 20 頭のうちメス 2 頭が周辺の草地を利用。電気柵設置後に電気柵を 1 回通過する行動が見られたが、その後、森林と草地間の移動は電気柵を回避。
- ・ 電気柵設置後、移動ルートを回避させたものの、草原を恒常的に利用。

【季節移動】

- ・ 追跡個体 20 頭のうち 11 頭が霧ヶ峰以外の場所で越冬する移動型であり、6 頭は冬季も霧ヶ峰で確認された。
- ・ 移動範囲は霧ヶ峰の直下から下諏訪町、長和町、八ヶ岳山麓までと様々である。



(図1)富士見台でのニホンジカ 行動
電気柵上部への移動はなし



(図2)八島ヶ原東でのニホンジカ の行動
平成20年7月19日 電気柵の通過



(図3)八島ヶ原東でのニホンジカ の行動
平成20年7月30日 電気柵を回避

2 平成 21 年度対策

防護対策（電気柵の設置）

設置箇所：富士見台地区、八島ヶ原湿原北部地区の 2 箇所（案）

設置時期：5 月連休明け（予定）

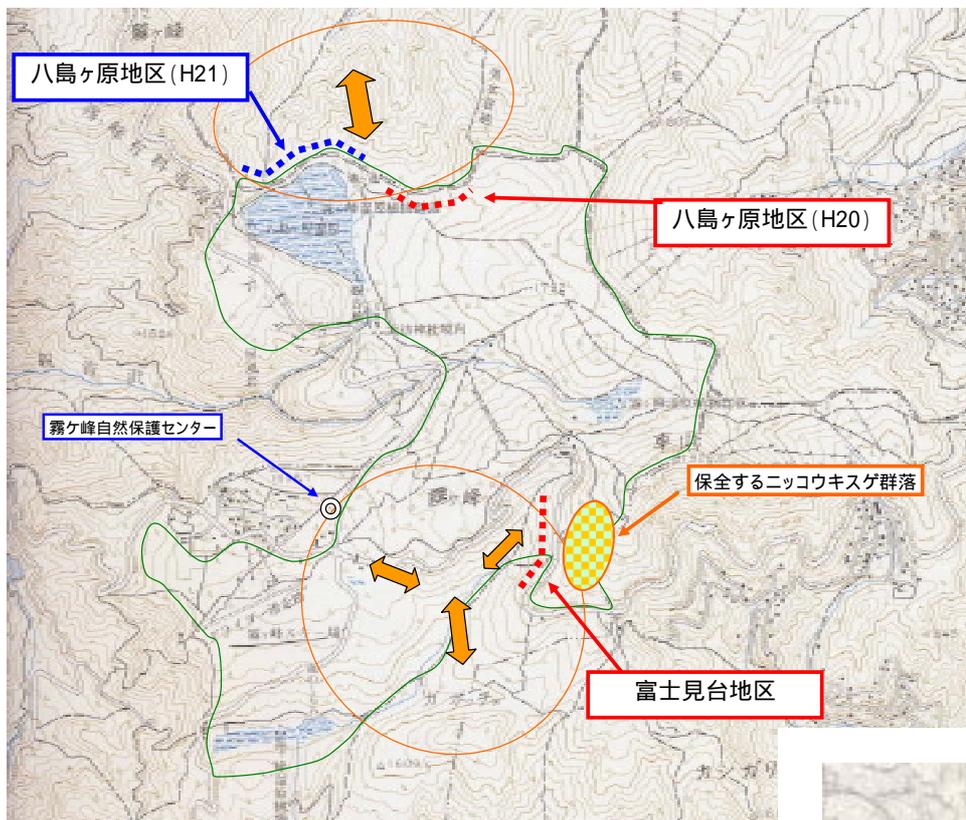
シカの行動追跡と防護効果の検証

- ・行動追跡調査
- ・植生影響調査（環境保全研究所）
- ・ライトセンサス調査（環境保全研究所）

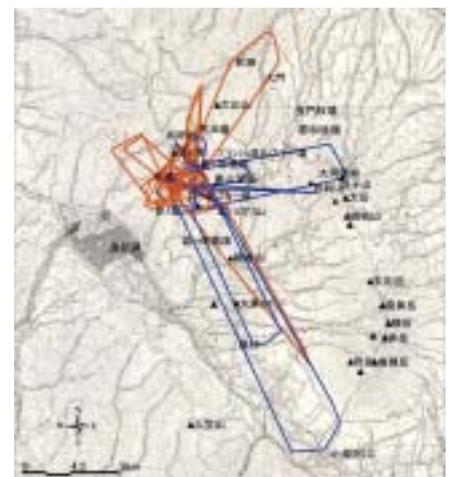
自然公園管理員の設置

5 月～10 月（6 ヶ月間）1 名を霧ヶ峰に常駐し、次の業務を実施する。

- ・防護柵の設置・メンテナンス
- ・シカ行動追跡調査の補助
- ・自然公園内の環境整備（ゴミ対策） 他



【電気柵設置計画（案）】



(図4)全追跡個体の行動圏の最外郭